

JUから 全日本大学駅伝に3年ぶり出場へ 城西大学男子駅伝部



雨の中、力走する金子(右)と中島

大学三大駅伝の一つである全日本大学駅伝対校選手権大会(11月5日)の予選大会が6月18日、さいたま市の駒場運動公園陸上競技場で行われた。男子駅伝部は総合9位の3時間59分05秒34で3年ぶり6度目の本戦出場を決めた。各校8人が2人ずつ4組に分かれて1万mを走り、合計タイムで競った。今回出走した8人は集団から大きく遅れることなく自分のレースに徹したことが、功を奏した。

最終組では関東インカレの個人種目に入賞した中島公平と金子元気の3年生コンビが29分そこそこの好記録をマーク。予選会通過の決定打となった。落選した10位の日本体育大学とはわずか12秒差、11位の創価大学とも13秒差という僅差。レース後、チームは笑顔が広がった。

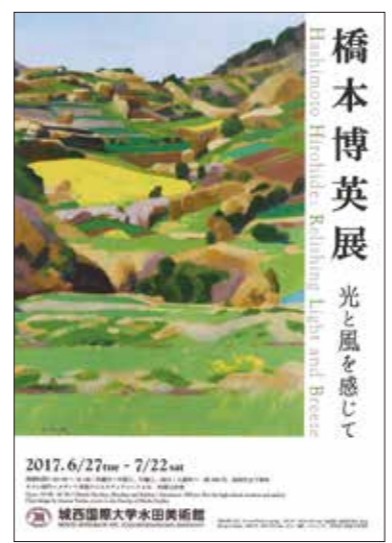
報告会で主将の中倉優也(経営4)は「チーム全員で勝ち取った結果」

「チーム全員で勝ち取った結果」(主将・中倉)



と話したが、「ギリギリの通過このままでは本戦では戦えない」とき締め、榎部静(監督)は「ギリギリだが価値のあるもの。それぞれがやるべきことをやってやっていけばチームは強くなる」と今後を見据えた。チームは夏合宿に向け準備を進める。秋以降のレースに期待の持てる結果となった。

城西大学 高尾慶徳(主将)



橋本博英展 光と風を感じて

「浜マラソン」をサポート 本学教授とゼミ生5人

九十九里浜を駆け抜ける「第8回浜マラソンin山武・九十九里」が6月4日、山武市の本須賀海水浴場を舞台に行われ、男女約420人が力走した。

約10%のコースで、30%、20%、10%、駅伝部門の4部門で、レース中に必要な水や食料はリュックに入れるなどして背負うのがルール。砂浜コース、房総半島の美しい海や浜を楽しみながら走る。

城西国際大学では、大会を盛り上げるためボランティアの学生らが参加。今回は、経営情報学部の大塚正美教授とそのゼミ生5人が駆け付けた。ボランティアの学生は、会場の設定やランナーの誘導などを行った。

[日本・ミャンマー交流空手道大会] 実力トップクラスのミャンマー4選手が参加

3年後に迫った東京五輪に向けた草の根の国際交流を進める活動として、東金市の市民団体がミャンマーから招いた空手選手が、5月20日に城西国際大学で開かれた「日本・ミャンマー交流空手道大会」(千葉県空手道連盟主催)に参戦した。

ミャンマー選手は4人で、全国大会優勝などの実績を持つトップクラスの實力派だ。4人は、周辺の道場から集まった小中高生約80人にまじり、トーナメント形式で対戦し、素早い動作で技を繰り出すなど地元選手と熱戦を展開した。ミャンマー選手は、東金市に滞在し、市役所を訪れ、志賀直温市長にあいさつした。



関係者によると、ミャンマーでは古くから日本人指者が空手を教えてきたことや、ミャンマー国軍も奨励していることから、空手が盛んだ。空手は、サッカーに次いで競技人口が多いスポーツだとの指摘も。

紀尾井町キャンパス 今秋 三大学合同の大学祭開催

本学城西国際大学から60人の実行委員の大学祭の開催準備を進めてきた。実行委員は、三大学合わせて60人(6月末現在)で、大学祭は10月1日(日)に3号棟を中心に行われ、飲食などの露店、映画上映会や展示などの「教室企画」、ダンスや音楽を披露する「ステージ企画」を予定している。

城西国際大学の実行委員代表の阿部駿史さん(実業2年)は「近隣の小中学校や町内会にも参加してくださったよう声をかけた。い定着させるためにも、第9回大学祭は、無理をせずに企画し、成功させたい」と話す。

紀尾井町キャンパス 10月1日 大学祭開催決定。

初めての大学祭を準備し、楽しく準備はできてるか!

三大学合同大学祭のポスター

医務室から 「健康の話」—— 熱中症

学生課・医務係 土肥和子

高温や多湿の環境下で、脱水と熱によって起こるすべての障害が「熱中症」

梅雨時の高温多湿の環境や初夏の暑さに慣れていない時期は熱中症が多く発症します。戸外だけでなく、室内でも熱中症を発症します。

- 【主な症状】
- めまい、顔のほてり、筋肉痛、吐き気や倦怠感、高体温、発汗異常(拭いても拭いても出ず、まったく汗が出ない)
 - 重症になると意識障害
- 【予防】
- 塩分、水分補給
 - こまめな水分補給
 - 汗をたくさんかいたら「経口補水液」を飲む
 - 環境を整える
 - 扇風機、エアコンによる温度調整
 - こまめな換気、カーテンなどで室温を上げにくくする
 - 外出時の注意
 - 帽子、日傘の使用
 - 日陰に入る、こまめな休憩
 - 通気性のよい吸収、速乾性の衣服
 - 暑い日の昼間の外出を避ける

【応急処置】

経口補水液でミネラルを補給し、涼しいところで、頸部、脇、足の付け根など太い血管のある場所を冷やす。

反応が緩慢なら、躊躇せず救急車を呼ぶ!

学内のAED設置場所知っていますか?

東金キャンパス	本部棟玄関前	L棟1階	体育会1階
	スポーツ文化センター1階	水田記念球場	J棟2階
	サッカー場	東金グローバルヴィレッジ	
紀尾井町キャンパス	1号棟1階受付横	1号棟1階入り口	3号棟1階正面階段横
	4号棟1階入り口横	5号棟1階入り口横	
安房キャンパス	1階事務室前	学生食堂	安房グローバルヴィレッジ

城西国際大学 sports

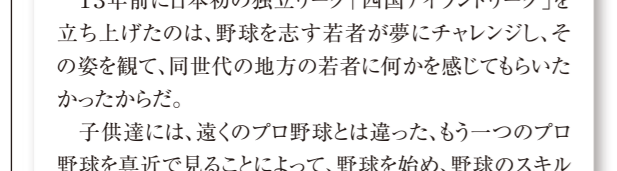
2017年7月 vol.2

「栄冠」は射程に入っている

城西国際大学 夏季号

城西国際大学 城西国際大学

「スポーツにエールを」



石毛 宏典 特任教授

13年前に日本初の独立リーグ「四国アイランドリーグ」を立ち上げたのは、野球を志す若者が夢にチャレンジし、その姿を見て、同世代の地方の若者に何かを感じてもらいたかったからだ。

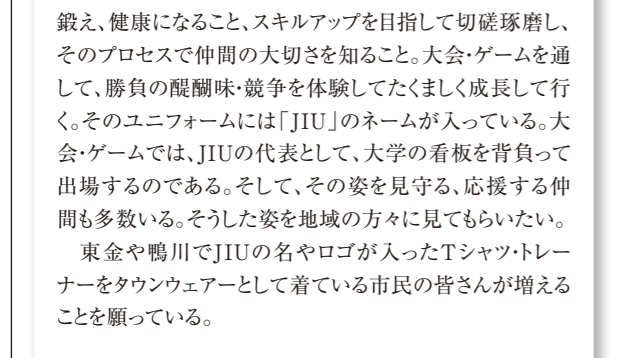
子供達には、遠くのプロ野球とは違った、もう一つのプロ野球を真近で見ることによって、野球を始め、野球のスキルアップにつなげて欲しい。また、地方にマイナーリーグ的なプロリーグを作ることによって、人・物・金の流れをつくり、経済効果を生みたいと思った。

プロスポーツ事業は、スポンサー頼みの感がある。地方のマイナースポーツ事業は常に経営に不安を抱えている。そのため、選手たちは地域との連携を大切にし、年に100回以上の野球教室・祭・イベント・ゴミ拾いなどの地域貢献活動に参加することによって、「俺が街のチーム」として受け入れ、いろいろな形で地域からの支援を受けている。その結果、毎年、数名が日本野球機構(NPB)に輩出できるリーグになってきている。

さて、大学スポーツ、今まではスポーツは教育の一環、とされてきたが、2016年5月に、スポーツ庁が主催するスポーツ未来開拓会議で、利益を稼ぎ出せる成長分野としての議論が進められ、大学スポーツの事業化も考えられてきている。今後は、アメリカの「NCAA(全米大学体育協会)」を参考にもっと議論が進むことと思われる。大学の資産である、グラウンドや体育館が収益を生み、それを地域に還元してゆく。時には指導を行い、ともに練習をし、地域スポーツのレベルを上げることによって、地域から応援される。そのパイラルを作ることによって、スポーツによって大学が地域を振興することになる。

教室で将来を見据えて学ぶ。部活動を通じて、心身を鍛え、健康になること、スキルアップを目指して切磋琢磨し、そのプロセスで仲間の大切さを知ること。大会・ゲームを通して、勝負の醍醐味・競争を体験してたくましく成長して行く。そのユニフォームには「JU」のネームが入っている。大会・ゲームでは、JUの代表として、大学の看板を背負って出場するのである。そして、その姿を見守る、応援する仲間も多数いる。そうした姿を地域の方々に見てもらいたい。

東金や鴨川でJUの名やロゴが入ったTシャツ・トレーナーをタウンウェアとして着ている市民の皆さんが増えることを願っている。



【略歴】駒沢大、プリンスホテルを経て、1981年西武ライオンズに入団。西武黄金時代のチームリーダーとして活躍。その後、福岡ダイエーホークスに移籍。同チームの2軍監督、オリックスブルーウェーブ監督を歴任して、独立リーグの四国アイランドリーグを創設する。2008年9月城西国際大学特任教授に就任。

反攻の秋 硬式野球部 神宮に向け手応え

「新しい力がどんどん出てきている」

前だけを見つめていた。5月21日にセフトーボールリーグで行われた千葉経大戦。城西国際大は8-0、7回コールドの大勝で2勝目を挙げ、単独2位で最終節を締めくくった。前節では、国際武道大にタイブレークの未借敗し、優勝こそ逃したものの、佐藤清監督に落胆はない。反攻の秋に向け、手応えを口にした。

「1回勝負を口にした。いい勝負をしたと思います。今シーズンには皆経験が少ない中、よく頑張った。駒が足りなかったのはありますが、これから新しい力がどんどん出てきて、楽しみにしています」

この日の先発、中島と2番手・徳永は1年生。5回、1回を無失点と好投し、最後は抑えの菅野が締めて完封リレーを完成させた。打線は初回に先頭安打から3番・湯浅の中越え適時三塁打と5安打で4得点、5回にはエンドランを交え4点を奪い、試合を決めた。左翼・藤本は初先発、5人が今季定位置を獲得したばかり。力を蓄えた春となった。

確かな前進を続けてきた。天理高早大、日本生命で主力選手として活躍し、早大では監督を務めた佐藤氏が監督に就任したのが07年。1人で、人間形成から始めた」と話すチーム作りは11年秋に一部リーグ初優勝の実を結んだ。秋3回の優勝後、9年目の15年に春も制覇し初の優勝。記念すべき神宮初勝利を挙げ、自信になった、と言っ。現在部員は166人。全国経験がさらなるチーム内競争、意識強化につながっている。

チームコンセプトは、「守り勝つ、野球だ。バッテリーを中心にしたディフェンス力。その上に攻撃がある」と指揮官友友に指導を仰ぎ強化に努めたが、今年からは元大洋でバッテリーコーチを務めた高浦美佐緒氏をコーチに招いた。今春は土肥が干支に、菅野が絶対的守護神へと成長、ストライクを投げていると言われ、土肥が話せば菅野も「直球に磨きがかかった」と効果を感じた。

【略歴】駒沢大、プリンスホテルを経て、1981年西武ライオンズに入団。西武黄金時代のチームリーダーとして活躍。その後、福岡ダイエーホークスに移籍。同チームの2軍監督、オリックスブルーウェーブ監督を歴任して、独立リーグの四国アイランドリーグを創設する。2008年9月城西国際大学特任教授に就任。

記者募集

記事を書いてみませんか。初心者でも大丈夫です。新聞記者経験が長い職員が取材、書き方を基本から指導します。写真、イラスト、漫画などでも協力してくれる学生も募集しています。

連絡はこちらまで ☎03 6238 1241

学校法人城西国際大学本部 広報センター

